

W7	<p>F: そうですね。保健所で、ただで受けられるっていうのは、 W: それはしらない、HIVですか？ F: エイズも受けられますし、性感染症も受けられる。 W: あ、そうなんですか、それは知らなかったです。</p>
M1	<p>S: うん、とは思うね。というか、200人以上とやっているのに、検査、一回も行ったことない知り合いもいるし、</p>
M1	<p>S: うんー、うん、まあ、いろいろ流行っているし、日本人以外っていうか、案外っていうか、正直意味がわからへんけど、あんまり、検査とかしない見たいで、なんか、まあ、さっき言った、世の中、終わっているってんなーっていうことは思います。うん。 終わってんなーとおもいます。 F: ふーん S: でも、いいなーとも思います。 F: へー S: だから、ちゃんとしている人はちゃんとしているでしょうし、ぶっちゃけ、ちゃんとしていない人が多いんちゃう？っていう人が多いとおもう。 ・・・ちょっとまって、あの、、、持ち帰られて、あの。。。まあまあまあ、その場面となって、あの、なんかよーわからへんけど、なんて言うの、、、避妊せずに、、、まあまあまあ、つてう話も、聞いたことあるし、ほんまに、、、、えぐいで、、。</p>

分析テーマ③ 性感染症の知識・認識・情報源	
カテゴリ-6【知識の不十分さ】	
概念19 関心もなく知識もない	
W6	<p>F: あー。じゃあ、HIVって単語を聞いたとき、どんなイメージがありますか。</p> <p>W: うーん、なんやろうな。うーんうーんうーん。わからない。</p> <p>F: あんまり考えてたことないですか。なるほどなるほど。</p> <p>ちなみに、エイズがどのように感染するかっていうのは、してますか？</p> <p>W: あんまり。</p>
M2	<p>M: で、なんか、一回聞いた話は、なんか、女の子側がそんな、知識がない子やって、そういう、性にかんする。</p> <p>F: うん</p> <p>M: で、男の人が、</p> <p>なんか、その女の子は、どうやったら妊娠するかも知らない子やって、www</p> <p>F: おおおお</p> <p>M: で、彼氏とつきあって、まあ、そういう関係になったときに、ずっと彼氏がつけずにやってみたいな。ってキイテ</p> <p>F: へー……あ、そうなんや。妊娠しなかつや</p> <p>M: つたですわね。</p> <p>F: ふー……んん……そういう子ってそんなにいる？</p> <p>M: まあ男側は、聞いたことある。着けずに……</p>
W6	<p>F: そういうのって、今まで、学校で習ったことってありますか？</p> <p>W: たぶん中学とかで習ったとおもうんですけど、なんか、実感ないっていうか、身近じゃないんで。わからへんっていうか。</p>
W6	<p>W: なんでゆわれたんやろ？うーん。そういうのがあって、保健体育の教科書とかで、そういうとこがあって、授業で、ばーって、言われた気がします。</p>
M2	<p>F: さっきいていた、女の子が妊娠の仕方とかしらなかった……っていう子もいたって、話なんだけど、そういう子って、結構いますか？</p> <p>そこまでひどい子はそこまでいない？</p> <p>M: あ、でもそういう知識うすい子は、たぶん、いると思います。</p>
W3	<p>F: あー、目に感染すると……？まあ、手で触って、目-こすって、うつったりする。</p> <p>W: あーそうなんですか……。それとか聞いたことありますね。まああんまり深くないですけど。</p> <p>F: 知識がって事？</p> <p>W: あ、はい。</p> <p>F: え、高校の授業はどういう感じで受けたんですか？</p> <p>W: は、普通に、エイズは、普通に、キスただけでは映りません。みたいな。そこらへんですわね。</p> <p>F: あ、そうなんだ。握手しても大丈夫です。みたいな。</p> <p>W: あ、はい。</p> <p>F: お風呂入っても大丈夫です。見たいな？</p> <p>W: そうですね。なんか、コンドームの、コンドーム、をつけてもうつる可能性があるみたいなの、あれ、ありましたっけ？</p> <p>F: あんまり……、絶対とはい言切れないけど。</p> <p>W: なんか、薬飲まず……。コンドームなくてやっても、薬飲まなあかんみたいなの。終わった後に。避妊？</p> <p>F: いやー、、、モーニングアフターピルのことかなー？</p> <p>W: びる…</p> <p>F: びる…</p> <p>W: あーなんか、あんまり覚えてないでちょっと、、、あほがばれます。</p> <p>ははは</p>

W4	<p>F:身近ではない。具体的に、どういう病気っていうのはしてますか？ W:あ、あの、保健体育とかで学ぶ程度は。 F:え、じゃ、知っていることをあげてみてください。 W:知ってることー？ F:保健体育でやりました？ W:あー、やった気がします。でも、高校のときやったから、あんま覚えてないかも。ぜんぜん、知ってることってなんやろ？え、じゃらんかも、じゃあ。 F:ははは W:知らないかもしれないです。 F:どうやって感染するとかは？ W:あああ！あ、それとかは、してます。 F:どういう症状とかは？ W:症状とかは分からないです。 F:感染経路とかしてますか？ W:あ、わかります。はい。 F:具体的に、どうやって感染しますか？ W:え、ゴムつけてなかったら、みたいな？じゃなくてとか？ F:あー、そうですね。まあ、性行動とか。あと、血とか。 W:あ、そうです。あ、血とか F:握手しても、うつらないとか W:あ、はい。わかっています。 F:そのくらい、その知識とかは、高校の授業とかで？ W:なんか、その握手とかは、小学校とか中学校とか。でも、やるじゃないですか。保健体育の授業とかで。ですね。中学校ぐらいか。 F:学校の授業でならった？ W:そうですね。 F:どういう症状っていうのは？ W:あ、ぜんぜんわかんないです。 F:ふーん、その高校の授業とかでも習わなかったですか？ W:たぶん、やったとおもうんですけど、忘れちゃった。</p>
G1	<p>W2:気づかないまま死ぬ事もあるんですか？ F:あのーエイズになって、ヒドくなって病院に行って、 W2:あー、もう手遅れ、みたいな？ W1:ヒドくなるって、どうやって分かるんですか？ W2:症状？風邪？ W3:やせて…やせて行ったりするんですよね？ F:そうですね。</p>
M2	<p>えっと、まあ、今いろんな性感染症の名前とかいってもらったけど、そういう知識って、自分の中で、どういうとこでついたとおもう？ M:保健体育。 F:あ、やったんや。授業とか？ M:授業でやりました。 F:へー——、どうい授業をうけましたか？ M:なんか、気を付けましよう、みたいな。 F:へー。何歳くらいのときにうけましたか。 M:高2か、高3で受けたとおもいます。 F:立命…か？ M:はい。 F:ほほ。…どんな感じの授業でしたか？なんか、何回もきいている。 M:なんか、普通に、保健体育の教科書にのってて、 F:あ、のってるんや。 M:なんか、授業の一環みたいなかんじ。</p>
概念20 エイズに対する恐怖感	
W3	<p>F:ことばを聞いて、どういうイメージを持っていますか？ W:えー、怖い。 F:ほー、どういった意味で怖い？ W:なんか、かかったこと気付かないんですよね、なかなか？</p>
W5	<p>エイズって聞いて、エイズとかHIVって聞いて、どういうイメージがありますか。 W:直感的にゆうたら、怖い。っていう。ただ、自分と密接に関係しているものではないかなーっていう。ちょっと、安易な、感じでももったりもしますね。 F:怖いっていうのは、どういうイメージですか？具体的にどういった面が怖いって？ W:完全に治らないじゃないですか？治らないですよね？</p>
W5	<p>W:完全に、一生付きまとう病気っていう意味で、めっちゃ怖いし。死ぬ可能性があるのもめっちゃ怖いし、あと、自分が女だから、これから子供生んだりとか、そういうことが出来なくなる。っていう。のが、こわいですね。</p>
概念21 性感染症罹患に対する羞恥心	
W1	<p>日本であれば、結構やっぱ、カミングアウトするの辛い、じゃないですかね。</p>
W1	<p>(周りで性感染症とか聞いた事あるか？)W:ないですね。性感染症もいえますかね？私、わたしがもしなったら、だったらどうでしょう。カミングアウトしないようなきもします。それだけで恥しいっていう思いのほうが先行しそう。(37:04)</p>
W1	<p>W:えっと、なってるとは思わないし、あとは、そういうところはやっぱり、日本的な考えですけど、ちょっと恥しいほうなのかなて、思うかんじで、恥ずかしいなって思ったりするんで、行ったりするのがですね、その場所に。なんで、まあでもかかっているって思わないからですね。最大の理由は。症状も知らなかった</p>

W4	<p>ちなみにもし自分が、感染症にかかったとかってなったら、友だちに相談したりしますか。それとも自分で一人で病院に行ったりとか。</p> <p>W:一人で病院に行くとおもいます。</p> <p>F:こっそり直して？</p> <p>W:言いたくないですあんまり。</p>
概念22 知識の自身のなさ	
	<p>F:へー確かに。あの一、具体的に性感染症ってどういうものがあるかご存知ですか？</p> <p>W:あまり、それは分からないですね。具体的なもの？</p> <p>.....</p> <p>F:例えばですね、クラミジアとか聞いたことありますか</p> <p>W:そういうのは、分かります。とか、名前は、ちょっと今ぱっと出てこないですね。クラミジアとか・・・なんでしたっけ？・・・かんびょう・・・とか？</p> <p>私良く分からないんですけど、性感染症になって、そこからどういった風になるんですか？病氣的に？病気の種類によるんですか？</p> <p>W:しらなかつたです。たとえば、クラミジアとかは知ってたんですけど、それにかかってどうなるかとか、そういう症状とか、皮膚かゆくなるとかそのくらいですね、イメージとしては。</p> <p>W:こわーい</p> <p>”</p>
W2	<p>W:エイズって、免疫の、あれですよ。あ、なんか、免疫が・・・、何に対する免疫かっていうのは、私もちょっと、わかんないんですけど、免疫が弱くなるとか作れなくなるとかで、そういうのが入ってきたときに戦えへんくなる。そういうことですよ、たぶん？F:そうそうそう。</p> <p>W:そういうぼやっとしたことしか知らないんですけど。</p>
W7	<p>F:なにか、えーっと、HIVについて知ってることってありますか。</p> <p>W:知ってる事？エイズとかの事ですよ？</p> <p>F:はいはい。</p> <p>W:HIV/エイズの事。</p> <p>F:知ってる事・・・</p> <p>W:うーん。全く知らないってわけではないんですけど。詳しく話せて言われたら。</p> <p>F:例えば、どんな事・・・。イメージでもいいですけど。どんなこと知ってますか。</p> <p>W:えー、どんなこと。えー、もう、エイズにかかったら、なおらへんのかなーとか。結構、大変な病気なんやなって、思います。それくらいですね。</p> <p>F:性感染症、については何か知ってますか？</p> <p>W:これも、なんか、そんな詳しくは、わからないんですけど、そういう病気があることは、一応わかってますけど、どういう症状が起こるんかは、あんまり分かりません。</p> <p>F:たとえば、どういう病気の名前とか知ってますか。</p>
G1	<p>F:予防の仕方、、感染の仕方知ってます、じゃあ、予防の仕方は知ってますか。っていう。</p> <p>W2:ゴムしたら・・・</p> <p>W1:でも、私、ゴムしたら、危ないと思ってた。</p> <p>W3:でも、あるよな、性病やったら。ゴムしてもあかんやつ。</p> <p>W1:え、エイズは？ゴムしたら、大丈夫なん？</p> <p>W2:うん。他の性病は有るらしい。</p> <p>W1:ふーん、エイズでも、ゴムしててもうつると思ってた。</p> <p>Ws:ゴムすごいね。</p> <p>W2:うん、すごい。</p>
カテゴリー7 【性感染症へのリスク認知の低さ】	
概念23 現実感の希薄さにより、自分は罹るはずがないという考え	
W1	<p>(F:性感染症についてどういうイメージを持っていますか)W:感染・・・、とりあえず、まあ、そのなった人の気持ちを考えると辛いんだろーなーっていうのと、結構マイナスのイメージをもっている人が多いですかね。</p>
W1	<p>W:私の周りには、いないんで、わからないんですけど。F:エイズの話・・・？性感染症？W:性感染症・・・</p>
W1	<p>W:なんか、子宮頸ガンとかこわいんですね。なんかそういうの、みんな実際、ならないと思っちゃってる気もするんですよ。</p>
W1	<p>(今まで感染したかもって思ったことありますか)W:いや、でも、あの、避妊しないですんだらたら、可能性もあるかもしれないとおもいますけど。そこまであんまり深く考えたことないですね。うん。じっさい。</p>
W1	<p>W:でもでも、なんか無料診療所とかありますよね、なんか今。でも、私は行ったことないし、そういうの調べたこともないですね。いまままで。</p>
W1	<p>W:なんなあ、最近エイズの奴とか結構コマーシャルとかで流れたりするし、そういつて匿名で受けられますっていうの流れたとしても、行くのかな、って思わない。ですよ。やっぱ、結構日本人ってそういうのに、敏感に反応しないっていうか、結構他人事のように聞いているような気がしますね。</p>
W1	<p>W:そういうの(性感染症のことを)を深刻に捕らえていけばキットかわるんでしょうけど。みんな、私もそうですけど、なっていないならいって、方が先行している気がしますけどね。</p>
W2	<p>F:そのことばを聞いてどうおもう？そのキーワード、、目に入ったときに、どういった印象を持っていますか。</p> <p>W:印象・・・例えば、ポスターを見て、とか？</p> <p>F:とか、まあ、そのキーワードが自分にとって、なんかあるとか。</p> <p>W:うーん、特にないな。</p> <p>F:特に何にもおもわない。じゃ、そのポスターとか貼ってあったら？</p> <p>W:はってあったら、目に入ったら、ぱっと歩いている時だったら、目に入るくらい抱けど、あーその啓発系のポスターなんやろーなーっていうくらい。</p> <p>F:そんなに気にしない？あんま見たことない？</p> <p>W:ちゃんと読むかは、電車で座ってて前にあるとかじゃないと、立ち止まってまでは見ないですね。</p> <p>F:そんなに自分から探しに行きたいっていうキーワードではない</p> <p>W:ない</p>

	<p>じゃあ、まずエイズ……エイズってことばを聞いて、あ、知ってます…？ W: あ、分かります。 F: エイズとかHIVってどういうイメージ？がありますか？ W: え、イメージ？ F: うん。 W: え。イメージ？… F: なんでもいいです。 W: 特にそんな。自分にはそんなに身近じゃないかな一つ。感じはしますね。</p>
W4	<p>でも、なんか、たぶん。全然聞いてたことは聞いてたと思うんですけど、時間がかつ経ち過ぎて、自分でもみじかじゃないし、だから、そんなちゃんと。だから、なんだろう、抜けていったやと思います。</p>
W4	<p>F: あ、そうですね。産婦人科ではもちろん受けられますし。保健センター、 Wあー F: 学校の保健センターじゃなくて、市役所とかの。 W: あ、そうですね。 F: はい、受けられます。受けに行ったことは…？ W* ないですー F: ないですか。受けに行こう、と思ったことも？ W: え、なんか、そうですね。ないですね。</p>
W7	<p>F: ちなみに、今まで、自分が感染したかもしれないって思ったことがありますか？ W: あたしがなったかも、って？ F: うん。 W: あ、ないです。それは、ないです。 F: それはなんでですか？ W: 別に症状とかもなかったんで、別に、思い当たる節とかもないんで。</p>
	<p>W: 直感的にゆうたら、怖い。っていう。ただ、自分と密接に関係しているものではないかな一つという。ちょっと、安易な、感じでおもったりもしますね。</p>
W7	<p>F: 他に何か性感染症の事って、身近に感じるようなことってなかったですか？ W: 身近はないです。友達とかは、なったとは言ってましたけど。 F: ふーん。自分の周りで流行ってると思いますか？ W: いや、そんな思わないです。わたしは。なった子とかはいましたけど。</p>
G1	<p>F: じゃあ、性感染症とか、エイズについて聞きたいんですが。なんか、知ってることありますか。 W1: しってること？ F: じゃあ、イメージとか。イメージって有りますか？性感染症っていうことばを聞いた時とか。エイズとかHIVって聞いたときとか。どういうイメージを持ちますか。 W1: こわい。 F: おう W1: 怖いぐらいじゃない。あとなんか、気をつけなきゃ、みたいなの。 W2: HIVとエイズと、性感染症っていうても、軽いものって言ったらあれだけ、もうあるから、 W3: でも、今死なんやんなー、 W2: うんうんうん。 W1: そうなの？ W2: 「付き合っていく」系よな。 W3: うん。</p>
<p>概念24 罹患しても治療すればいいという性感染症への軽視</p>	
W5	<p>F: 友人が感染したとか、って聞いたことありますか？ W: あります。 F: そんなとき、どういう反応しましたか？ W: あたしのですよね？ F: はい。 W: 残念やな。 F: ははは笑 W: おつかれさま、、見たいな</p>
W5	<p>エイズ、でも、エイズと性病って、私の中で全然違くて、性病なら、周りになった子とか、いっぱいいるから、まあ、ちょちよいつて治るやろ、って感じるけど、エイズはなんか、もう一生この世の終わりって思っちゃうとおもいます。</p>
G1	<p>F: はは。なんかおもしろい。え、性感染症って、そんなに流行ってないってイメージありますか？ W1: 性感染症は、結構… W2: 流行ってるやろー。 W1: すぐなって、すぐ治っちゃうイメージある。 F: そうなんですか。周りになった人って聞いた事ありますか？ W1: ありますね。 W2: はは W2: 何人かは。 F: そうなん。 W: 結構いる。 W1: なんか、その結構、重症な感じのイメージがない。 Ws: うん。 W1: すぐ治っちゃうのかな一つ。 W2: 飲み薬とかで治るもんな。</p>
<p>カテゴリ-8 【情報支援源としての周辺環境】</p>	
<p>概念25 支援時や相談や助けを求めたりする心を許す友人</p>	

W2	W:うん、(そういうの)も、あるし。で、こうなんやけど、病院行ったほうがいいかな、とかもあるし。なんか、例えば元カレから電話かかってきて、実は3股かけられてたけど、そのうちの一人の女の子が、発覚して、で、っていうの、ネットでこうきいたんだけど、、、って、こういうのありえへんくない、これ?とか。そういう話も、多々。。はは
W2	W:で、病院...とか?行ったほうがいいかなとかだったら、行ったほうがいいし、ついていよーって行ったことも何回もあるし。で、うん。ありえへんくない、って言われたら、とりあえず検査してみたらーって。
W2	W:あとはその、大体の期間とかみて、その連絡とるべき人は取っといたほうがいいよーっていうのだけは、言ってたかなー。
W2	W:恥しくて...?そういう子、結構、いろんなところから、、、言われたり。妊娠したかも、とかも結構言われたりするから。何回も連れてってますね、産婦人科には。
W7	F:女の子? W:それは、女の子です。 F:周囲はそういうはなしをすることはありますか? W:私の友達とかは、普通に言うんで。(15:30)かかったとか言ってましたけど。一人女の子がかかったって言って、男の子もかかったって言ってました。 F:へー。もし自分がかかったら、友達に相談したりとか、 W:私言うと思います。 F:それは、事後報告すると思いますか、それとも、ヤバいってなって、もしかしたら感染してるかもって、時点で言いますか? W:いいいます。 F:それは、どういう気持ちで相談すると思いますか? W:えー、もう、どうしよう、って思います。どうしたらいいのかなー、みたいな。 F:相談するんですか? W:そうだなるとおもいます。
W7	F:じゃあ、ちなみに、性感染症にかかったと思って、検査いって、もしかかってたら、どういう感情を抱きますか。 W:最悪、とおもいますが、友達にまた言うと思います。かかってんけど、 F:ふーん。友達に結構そうなんですね。 W:あ、します。 F:なんでも話すってかんじですか? W:はい、はなします。一人で、なんか、溜め込めへん性格なんで、 F:ふーん、それで、話すと解決しますか? W:なんか、安心します。(17:36) そんなみんなには言わないですけど、
G1	F:確かに。そういうのって、話に、噂でまわるんですか?それとも、誰かが普通に話し手くれたりするんですか? W3:いままで聞いたんは普通に話してくれました。 W2:なんか、ついて行ったりもしました。産婦人科に。
概念26 友人からの情報	
W1	W:でも、こういった風にだれかと話すのって結構...正直、情報自分から得ようって思わない限り、入ってこないんで、そういうことって。日本に居れば、まあ、どこの国にいてもですけど。なんで、誰かが言ってくれればそうなんだ。と。まあ、それが第一歩かなと。
W3	W:独学で、めっちゃ勉強してる子がいて。チャリティーとかにも参加している子がいて、独り。その子、めっちゃ詳しいと思いますね。 F:へー。じゃあ、その子から聞いたりとか。 W:そうですね。その子が、日記で、そういうこと書いてたりしたら、
W4	F:大学生ってどこで影響受けてるとおもいますか? W:影響は、なんやろ。人によって違うとおもうんですけど、でも、やっぱり周りの人ととかじゃありませんか。やっぱり。友だちとかから、性感染症とかエイズのことを周りの人が言ったら、それを本人も気をつけるんかなーと F:結構ともだちの影響とか? W:受けやすいとおもうんで。 F:ふーん
W4	じゃあ、性感染症については、何か知ってますか? W:あ、友だちがなったっていう。笑以外知らないです。でも、まあ、なんか、正味クラミジア?とかだったら、高校のときにやったけど、
W7	W:えっと、私の友達が、大阪の子で、エイズの、についての、チャリティイベントみたいなんをしてたんで。それで
M2	性感染症とかエイズとか、まあ、病気に限らず、性の話について、その友達とかとはなす機会ってありますか? M:まあ、あ、はい。 F:あ、ある?たとえばどんな話ですか? M:笑。 F:あ、別に公開しないから大丈夫だけど...わらい M:なんか、都市伝説とかあるじゃないですか。 F:えー、都市伝説?どんなん?笑...まあ、私も好きやけど M:なんか、アメリカ人はそういうの多いとか? 笑 F:へー。アメリカ人は多い...他にはなんかある? こんな話この前したなーとか。 M:え、病気とか? F:うん、病気とか、でもいいし。もっと、深めれば、だれかがかかったとか。私やばいわー、俺やばいわーとか。そういう話... M:あ、それは、はい。あります。 F:結構ある? M:聞いたことある。
概念27 テレビやソーシャルメディアから受ける情報への信頼	

W5	<p>性感染症とかエイズの情報って、どこから、得ましたか。 W: たぶん、エイズで言ったら、ドラマで、「神様もうすこしだけ」って、あれで。あれで、「おお」って思いました。あれ、エイズやったと思います。あと、テレビが多いかな。ドキュメンタリーとか。友だちから聞く話おおいですけど。それよりは、どっちかというとテレビのほうが信用してるから。</p>
G1	<p>W2: なんか、「神様もうすこしだけ」みたいなの。 W3: みたみたみた！ W: (その)知識でかい。 F: あー。あの印象イメージ大きいですか？ Ws: 強い強い！ W2: だって、あの時死ぬ病気でしたしね。 W3: あれで知ったしね。 W1: うちもあれでしった。 W2: めっちゃ怖かった。 W3: でも、うちら世代全員みてるんちゃう？ W2: みるよ。 W3: あれ、すごかったー</p>
G1	<p>W2: あー学校でもならったなー。 F: 学校でも、習うっていうのは、どういう内容を習いましたか？ W3: エイズっていう欄があるよな。保健体育で。 W2: えーでも、学校で習った記憶はあるけど、習った内容の記録は全然ない。 W1: 私もない。 W2: それより、こうやって喋ったり、テレビで見た記憶の方が、ある。</p>
G1	<p>W1: でも、普通に聞く事もあるくない？なんだろうな／ W2: その前日にテレビで、やってたら、あのテレビやってた、っていう流れで。テレビの話の感じで、喋って。あ、そういえば。知ってる知識、やねんけど、みたいなノリで。</p>
G1	<p>F: じゃあ、今までみた、予防のメッセージとか、「エイズ気をつけましょう」みたいな。そういうの。テレビ、とか雑誌とか。CMとか。なんか、印象に残ったものってありますか？ W3: 神様、かなー W2: うち、神様もう少しだけ、しかわからん。 W3: え、でも、あつたって。 W2: だめ、ぜったい、とかってまた違うやつやんなー ははははは W2: でも、なんか有りますよねー、 W3: あ、あれあれ！ W2: あ、私の彼、元カレのもと元カレの元カレの・・・が、みたいなの。追い込まれるやつ、めっちゃ。</p>
G1	<p>W3: あと、少女マンガとか！ F: あー、少女マンガ？ W2: あつた？ W3: あるくない？ W3: なんかな、一時期な、おねいちゃんと、読みきり、はまったんやん。 F: あ、ありましたね W2: 読み切りやったら、読み切りの中の一個ぐらいは入ってますよね。エイズの女の子の話とか。あ！それや！ライフとか書いてる人ですよね！ W: あ、それー、！ W2: めっちゃ、はやってたやん。めっちゃ回り読みしてたやん。 W: ももちれいこ？あ、それは、ビーチガールか、 W2: なんだっけ、ライフ書いてるひとは、すごいなんか。 W: アレは、みんな見回した！</p>
G1	<p>F: ははは。ちなみに、検査って、何処でどういう風に受けれるか、知ってますか？ W1: 保健所でしたっけ？ F: はい。知ってましたか？ W2: なんかさ、若槻ちなつがさ、知ってる？ W3: あー、CMLしてたなー！ W2: (検査)受けに行ってる。 W3: あ、ブログや！ F: へー</p>

2. 滞日外国人若者の予防介入研究

研究Ⅱ：日本におけるブラジル人青少年を対象とした予防教育に関する研究 (web+peer-based intervention)

研究班員：岩木 エリーザ	特定非営利法人 CRIATIVOS-HIV/STD 関連支援センター
比嘉 アレシャンドレ	特定非営利法人 CRIATIVOS-HIV/STD 関連支援センター
木本 カリナ	特定非営利法人 CRIATIVOS-HIV/STD 関連支援センター
Pilar Sugimoto	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野
木原 雅子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野

【研究の背景】

1980年代、バブル経済により労働者が不足状態にあった日本に、日本政府は1990年に「出入国及び難民認定法（入管法）」を改正し、三世までの日系人とその配偶者に、単純労働の就労を可能とする特定ビザ、通称「定住ビザ」（最高3年間滞在可、更新可）を発行できるようにし、労働者不足に歯止めを打つための政策のひとつであった。

そして、当時、経済危機にあったブラジル、ペルーなど、ラテンアメリカ諸国の日系コミュニティを対象に、日本での就労を働きかけ、移住労働者の募集を行った。日系人コミュニティとは戦前、戦後の日本における移住政策にそって南米の国々に渡った多くの日本人とその子孫で形成している。

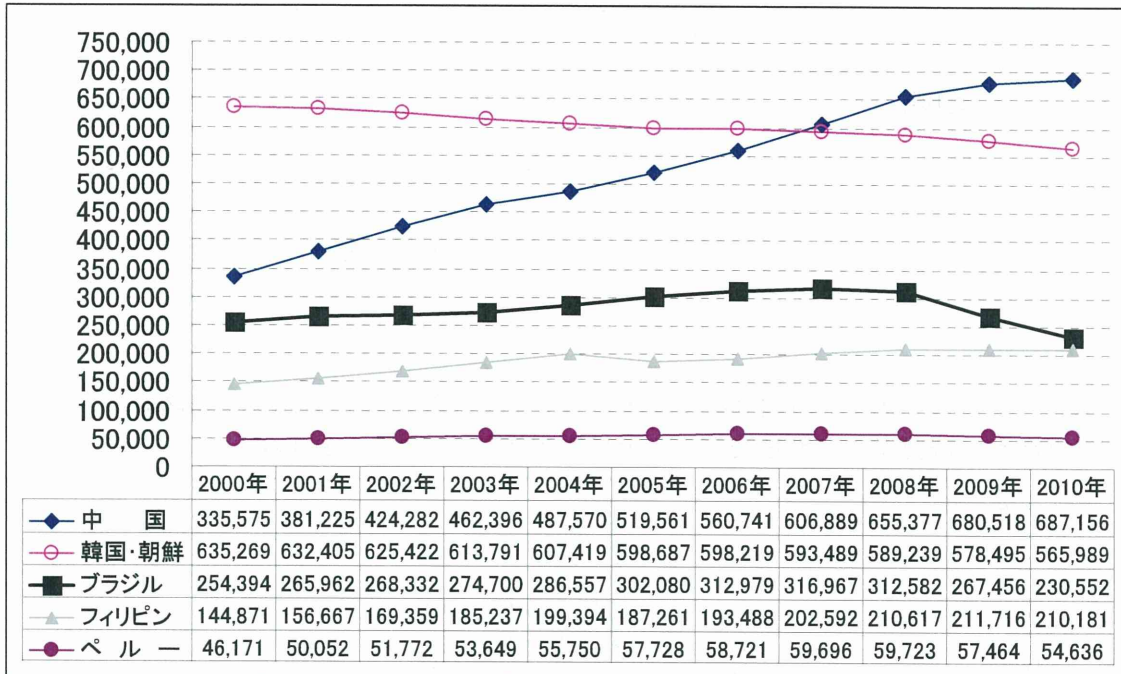
ラテンアメリカ諸国の経済危機、入管法の改正、そして、移住労働者募集の結果、多くの日系人が来日し、在日ブラジル人住民コミュニティは1990年の約14千人から一気に2007年の約317万人までに急増したが、米国のリーマンショッ

クから発展した世界的な経済危機を境に、在日ブラジル人住民の数が大きく変化し、減少しはじめ、2010年末現在の法務省入国管理局¹の報告によると、外国人登録をしているブラジル国籍の外国人登録者はピーク時から約8万7千少ない、230,552人であった。（図1）

詳細に調べるとブラジル国籍の外国人登録者数の推移は、1990年から2000年にかけて、わずか10年の間に、実に18倍に急増したが、また、2000年から2010年にかけて、約8万6千人減少し、2011年9月末現在の速報で、さらに減少していることが分かり、最近10年で約10万人減少していることが分かった。（図2）

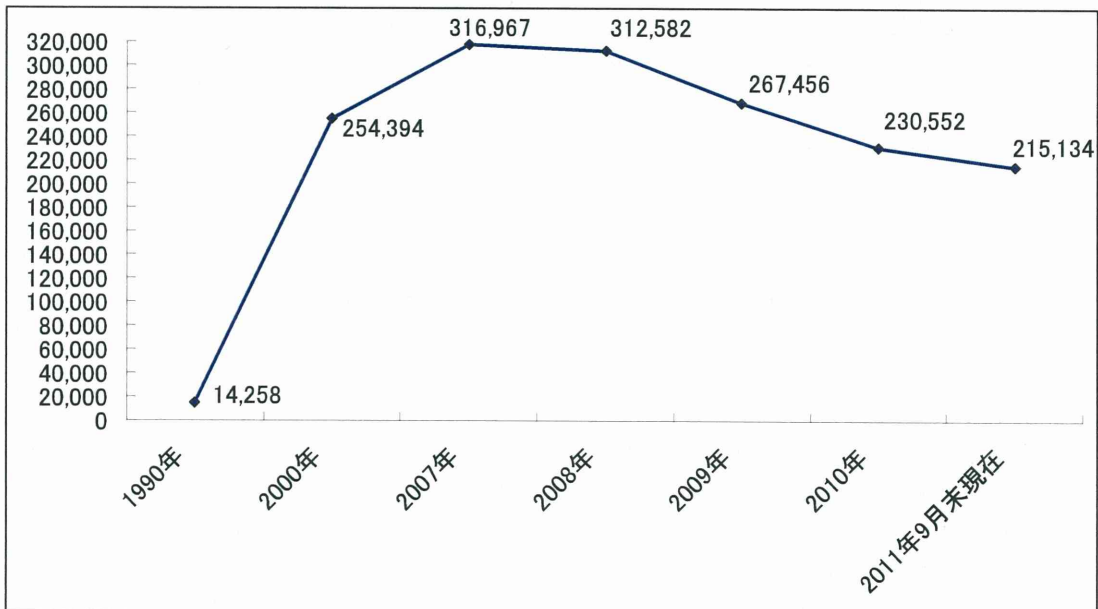
また、特にブラジル国籍住民の外国人登録者数が多かった2県の登録者数の推移でも、大きく減少していることが分かる。（表1）

図1：主な国籍（出身地）別外国人登録者数の推移（2000年～2010年）



出典：法務省入国管理局編「在留外国人統計」、平成22年版。

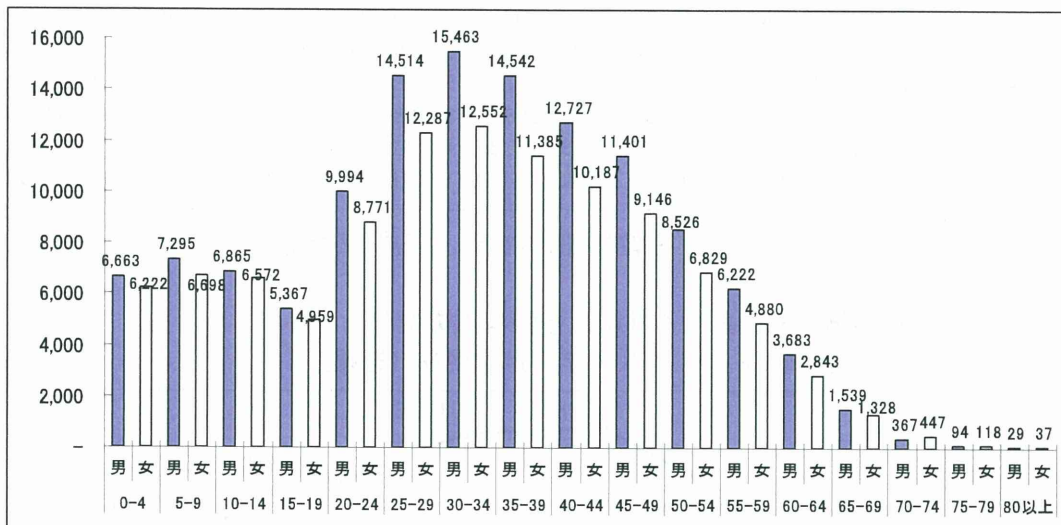
図2：ブラジル国籍住民における外国人登録者数の推移：
1990年12月末現在～2011年9月末現在（速報）



	2008年	2009年	2010年	2011年
愛知県	73,706	67,125	59,515	55,310
静岡県	51,563	42,513	37,220	33,968

2010年におけるブラジル国籍住民の外国人登録者数の構成を見ると、当研究の対象としている、若年層、つまり、およそ5歳から19歳の青少年の数は約3万7千人に上る。(図3)

図3：2010年12月末現在におけるブラジル国籍住民の外国人登録者数の男女・年齢構成(出典：法務省入国管理局編「在留外国人統計」、平成23年版)



在日ブラジル人の就学年齢にあたる少年に関しては、2008年には6,373人が日本におけるブラジル人学校の小・中・高等学校に通っていたが、2009年にはその数が3,881人に減少していた。そして、ブラジル人学校の数も、ピーク時には100校以上あったのが、2011年10月現在では45校に減少していた(AEBJ-ブラジル人学校協会による)。

一方、文部科学省の調査によると2010年9月1日現在、公立の小・中・高等学校における、日本語指導を受けている外国籍の児童数は23,448人で、うち、ポルトガル語を母語とする児童は9,477人であり、この数字も2009年に比べて16.8%減少していた。

このように、劇的に変化している在日ブラジル人コミュニティにおいて、HIV関連の予防教育研究の展開は非常に難しいものである一方、他方で、激変する移住労働者コミュニティ、さらにその子どもである青少年は社会の様々な側面からより脆弱な立場に置かれることが考えられ、悪い労働条件、社会保障への妨げ、健康や教育へのアクセスの難しさ、犯罪や非行、そして、早すぎる妊娠やSTD・HIV感染への脆弱な立場がより一層深刻なっていると考えられる。

こうして、当研究グループは疎外されやすいマイノリティー、そして、より脆弱な立場にあるその若者に焦点をあて、HIV関連の効果的な予防教育を構築すること目指している。

【研究の目的】

日本に住んでいるよい多くの青少年、特に、ブラジル人学校に通っている若者を対象に HIV の予防教育に関する介入とその評価を繰り返して、より浸透度の高い、かつ予防認識・態度・行動変容に繋がる教育方法を見出すことを目的とする。

【方法】

■ **研究デザイン**：Pre and Post-test comparison group 手法を用いてブラジル人学校 4 校に対し、次の 2 つ介入方法の評価を図った：

■ **直接的介入**：

a. **ワークショップ介入の評価**：2 校に対しては、事前調査を行って、約 2 週間後に HIV 予防に関するワークショップを実施し、ワークショップの直後に事後調査を実施した。
{Pre-test → exposure to work-shop → Post-test}

b. **ホームページ介入の評価**：2 校に対しては、事前調査を実施し、事前長直後に当ホームページの PR カードを配布し、講演会までにホームページにアクセスするように指示するよう、学校の先生に頼んだ。その 1-2 週間後に学校を訪問し、事後調査を行い、その後にワークショップを実施した。
{Pre-test → exposure to homepage → Post-test → work-shop}

【結果】

A) HIV/STD に関する予防介入における評価

■ **調査方法**：

対象者：ブラジル人学校 4 校に通っている生徒のうちの、12 歳～18 歳までの生徒（小学校 6 年生～高校 3 年生）、合計 165 人。

上記の 4 つの学校を対象に介入前にアンケート調査を実施し、2 つの異なった介入を行った後に、事後調査を実施した。

「介入前」の調査票は郵送にて、実施方法についての文書及び、電話にて先生に伝えたい、学校の教師が実施した。その後、郵送にて送り返して貰った。

介入前後に同じ内容の自記式無記名アンケート調査票を用いて、次の項目で構成した：

- ① 「属性」
- ② 「日本における滞在歴」
- ③ 「学歴」
- ④ 「両親との別居歴や現在の同居人」
- ⑤ 「携帯所持の有無と携帯からインターネットへのアクセスについて」
- ⑥ 「インターネットへアクセスとその接続時間」
- ⑦ 「交際経験」
- ⑧ 「性経験」
- ⑨ 「HIV・STD・避妊に関する知識」
- ⑩ 「HIV・STD 予防及び避妊に対する意識」
- ⑪ 「コンドーム使用に対する意識」
- ⑫ 「HIV 予防関連の情報への暴露の有無」

■介入方法：

- a. 2校に関しては、郵送にて事前アンケート調査は実施され、実施方法などは文書及び電話にて説明した上、講師に実施を頼んだ。そして、実施後に、講師が回収し、郵送にて調査員に送り返した。

事前調査における欠落している知識項目を中心にワークショップを組み立て、事前調査の1-2週間後に調査員自ら学校に出向いて、ワークショップ式のHIV/STD関連の予防教育を実施、ワークショップの直後に、事後調査票を配布、その場で記入してもらい、回収した。その後、若者のホームページアドレスが記載されている名刺サイズのカード、および、当研究グループが2年前前に作成した若者向けのパンフレットを配布した。

「ワークショップの内容」は2時間にわたって、

- ① QUIZ形式で「HIVの流行規模（感染者数、感染拡大、STD流行の拡大など）」について情報を提供し；
- ② 小グループに分かれ、男女の交際ストーリーを作成し、その物語に添って、「HIVにおける予防知識」、「コンドーム使用の重要性」、「ピアグループのプレッシャーなどに負けず性交渉をあせらないこと」、「HIV予防には効果ないが、他の避妊方法の紹介」、「HIV抗体検査における知識」、「他のSTDについて」、「他のSTDとHIVの関連性」などについて話し合い、
- ③ 「質疑応答」を盛り込んだワークショップを実施した。

- b. 他の2校へは、事前調査記入後に、教師が調査票を回収し、その後、当研究グループ作成の若者向けのホームページのアドレスが記載されている名刺サイズのカードを配布し、さらに、ワークショップの日程までにアクセスし、中身を読むように指示するよう、文書と電話にて頼んだ。また、事前調査票は郵送にて調査員の元に戻された。

（ホームページの構成・内容については昨年の当研究班の報告書を参照。ホームページへのアクセス状況に関する分析は次のセッションに記載）

その後、調査員自ら学校を訪れ、事後アンケート調査を実施し、その場で回収した。そして、事前調査の結果を踏まえて、欠落知識項目を中心にワークショップを組み立て、事後アンケート調査実施後にワークショップを行った。ワークショップ実施後、さらに2年前前に当研究グループが作成した若者向けのパンフレットを配布した。

介入を実施した学校は次の通りである：

a. ワークショップによる介入：

静岡県浜松市所在の Escola Alcance ブラジル人学校、9名

埼玉県児玉郡所在の TS Recreação ブラジル人学校、25名

b. ホームページによる介入：

三重県鈴鹿市所在の Escola Alegria de SaAer ブラジル人学校、93名

愛知県安城市所在の Escola São Paulo ブラジル人学校、38名

介入の評価結果：

1) 介入前後の調査結果：

回収率に関しては、学校在籍の母集団は165名（対象年齢相当の在籍生徒数）であったが、事前調査4校を合わせての総回収率は約92.7%（153/165）であり、また、事後調査の総回収率は約82.4%（136/165）であった。

a. ワークショップにおける介入評価の結果：

ワークショップにおける介入参加者及び、回答者数は介入前で 29 名、そして、介入後で 21 名であった。

ワークショップによる介入を実施した 2 校の男女比率は介入前の集団では約男 0.9 : 女 1 (男子 14 名、女子 15 名)、そして、介入後では男 1.3 : 女 1 (男子 12 名、女子 9 名) であった。また、全体の平均年齢は約 15 歳±2 歳であった。そして、学年に関しては、基礎教育 8 年生から、中等教育 3 年生までで、日本の教育の中学校 2 年生から高校 3 年生までに相当する。(表 A 1)

表 A 1 : 2011 年度 : 講演会介入における事前調査対象者の属性 - 介入前後の比較

ワークショップ介入における事前調査対象者の属性						
介入前				介入後		
項目	人数	%	割合	人数	%	割合
男子	14 人	48.3%	(14/29)	12 人	57.1%	(12/21)
女子	15 人	51.7%	(15/29)	9 人	42.9%	(9/21)
中 2	7 人	24.2%	(7/29)	8 人	38.1%	(8/21)
中 3	6 人	20.7%	(6/29)	4 人	19.0%	(4/21)
高 1	5 人	17.2%	(5/29)	3 人	14.3%	(3/21)
高 2	6 人	20.7%	(6/29)	2 人	9.5%	(2/21)
高 3	5 人	17.2%	(5/29)	4 人	19.0%	(4/21)

● **日本滞在期間** : 日本滞在時間については、介入前後で約 4 割が「日本滞在ははじめてである」と答えて、約 3 割が「日本には以前も住んだことがある」と答えている。そして、「日本生まれでブラジルへは行ったことがない」として「日本生まれでブラジルへは遊びのみで行ったことがある」と答えた生徒をあわせて約 2 割であった。(表 A 2)

表 A 2 : 2011 年度 : ワークショップ介入前後調査における対象者の日本滞在期間 - 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の日本滞在期間						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
日本生まれで、ブラジルへは行ったことがない	2 人	5.1%	(2/29)	2 人	9.5%	(2/21)
日本生まれで、ブラジルへは遊びにしか行っていない	4 人	13.8%	(4/29)	5 人	23.8%	(5/21)
日本は始めてである	14 人	48.3%	(14/29)	8 人	38.1%	(8/21)
日本には以前も住んだことがある	8 人	27.6%	(8/29)	6 人	28.6%	(6/21)

●**両親との生活歴**：両親との生活歴つまり、「両親と離れて生活をしたことがあるかどうか」の質問については、約4割の生徒が「両親と離れて生活をしたことがない」と答え、「両親ともにと離れて生活をしたことがある」と答えた生徒は約2.5割で、「父親と離れて生活したことがある」は約2.5割、そして、「母親と離れて生活したことがある」と答えた生徒は約0.5割りであった。(表A3)

表A3：2011年度：ワークショップ介入前後調査における対象者の両親との生活歴
- 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の両親との生活歴						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
父親と離れて生活したことがある	7人	24.1%	7/29	6人	28.6%	6/21
母親と離れて生活したことがある	2人	5.1%	2/29	1人	4.8%	1/21
両親共にと離れて生活したことがある	8人	27.6%	8/29	5人	23.8%	5/21
両親と離れて生活したことがない	12人	41.4%	12/29	8人	38.1%	8/21

そして、「**現在、誰と暮らしているか**」の質問に対し、ほぼ全員が「母親」と暮らしていると答えたが、「父親」とは、約8割、そして、「姉妹・兄弟」とは約4割と一緒に暮らしていると回答した。(表A4)

表A4：2011年度：ワークショップ介入前後調査における対象者の現在の同居人（複数回答）
- 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の現在の同居人（複数回答）						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
母親	27	93.1%	(27/29)	21	100.0%	(21/21)
父親	25	86.2%	(25/29)	17	80.1%	(17/21)
姉妹・兄弟	11	37.9%	(11/29)	8	38.1%	(8/21)
親戚	3	10.3%	(3/29)	2	28.6%	(2/21)
継父	2	6.9%	(2/29)	2	28.6%	(2/21)

●**インターネットアクセス**：介入前後で「インターネットにアクセスする」と回答した生徒は、介入前で約96.6% (28/29)、そして、「インターネット使用の頻度」で「毎日」と回答した生徒は約82.1% (23/28)であった。介入後では、それぞれ約85.7%と約77.8%であった。また、「一回のアクセスにどのくらい接続しているか」の質問に対し、介入前では平均的に約3.5±3.2時間、そして、介入後では平均に約4.3±3.5時間インターネットに接続していると回答した。

ちなみに、携帯電話を持っている生徒の中で、**携帯電話におけるインターネット接続**は介入前の生徒では約70% (14/20)、そして、介入後では約66.7% (14/21)であった。

● **交際及び、性経験、予防行動**：介入前後で**交際及び、性経験**について、「その場限りの付き合い」、「ステディーな付き合い」そして「性経験」について、次のような結果が得られた：（表A5）

表A5：2011年度：ワークショップ介入前後調査における対象者の交際・性経験
- 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の交際・性経験						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
その場限りの使いあり	16	55.2%	(16/29)	9	42.8%	(9/21)
ステディーな付き合いあり	9	31.0%	(9/29)	6	28.6%	(6/21)
性経験あり	5	17.2%	(5/29)	3	14.3%	(3/21)
	平均			平均		
はじめての性経験の年齢	16.5±1.3歳			16.6±1.5歳		
はじめての性交渉のパートナーの年齢	18.1±3.1歳			15.5±2.1歳		

性交渉の経験が生徒における**コンドーム使用の有無**について、「最後の性交渉にてコンドームを使用した」と回答した生徒は介入前で100%（5/5）、介入後では約66.7%（2/3）であった。

●HIV・STD・避妊関連における知識：「コンドームを使用しない性交渉では HIV に感染する可能性がある」、「HIV に感染している人を抱擁しても HIV には感染しない」、「見た目では HIV に感染しているかどうかは判断できない」、「コンドームは HIV や STD を予防できる」、「避妊ピルは妊娠を防げる」や「避妊ピルでは HIV は予防できない」などの知識項目においては、元々知識が高く、正解率も高いものであったため、介入前後における正解率の差は目立たなかった。しかし、「ブラジル国の HIV 流行の規模」、「日本における HIV 流行の拡大」、「HIV 検査関連」、「STD と HIV の関連性」などに関しては、介入後の正解率が介入前よりも高いものであった。但し、「STD が未治療の場合、不妊を引き起こす可能性がある」及び「排卵カレンダーによつての避妊方法でもコンドームも使用する必要がある」の項目については、介入後で正解率が減少していることが分かった。(表 A 7)

表 A 7：2011 年度：ワークショップ介入前後調査における対象者の HIV/STD/避妊における知識の正解率 - 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の HIV/STD/避妊における知識の正解率						
	介入前			介入後		
	人数	正解%	割合	人数	正解%	割合
ブラジル国では 60 万人以上が HIV に感染している	8	27.6	8/29	18	85.7	18/21
日本では HIV 感染が拡大している	7	24.1	7/29	15	71.4	15/21
日本では若者の間で STD が増加している	8	27.6	8/29	11	55.0	11/21
HIV はプールや風呂を介して感染しない	18	62.1	18/29	19	90.5	19/21
HIV はコンドームなしの性交渉で感染可	28	<u>96.6</u>	28/29	20	<u>95.2</u>	20/21
HIV は抱擁を介して感染しない	27	<u>93.1</u>	27/29	20	<u>95.2</u>	20/21
見た目は健康でも、HIV 感染可	26	<u>89.7</u>	26/29	18	<u>85.7</u>	18/21
医学の発達により、HIV 感染でも長く生きられる	16	55.2	16/29	15	71.4	15/21
HIV 検査は機会から 3 ヶ月後にしか分からない	6	20.7	6/29	13	61.9	13/21
保健所では無料・匿名で HIV 検査可	9	31.0	9/29	17	81.0	17/21
STD によっては自覚症状がないものもある	8	27.6	8/29	12	57.1	12/21
STD に感染していると HIV に感染しやすい	11	37.9	11/29	13	61.9	13/21
未治療の STD は不妊を引き起こすことがある	15	51.7	15/29	10	<u>47.6</u>	10/21
女性の未治療の STD は子宮頸がんを引き起こすことがある	12	41.4	14/29	8	40.0	8/20
コンドームは STD や HIV を予防できる	27	<u>93.1</u>	27/29	20	<u>95.2</u>	20/21
避妊ピルは妊娠を防げる	27	<u>93.1</u>	27/29	20	<u>95.2</u>	20/21
避妊ピルは HIV を防げない	25	<u>86.2</u>	25/29	19	<u>90.5</u>	19/21
“外だし”では避妊できない	7	24.1	7/29	7	33.3	7/21
排卵カレンダーでも避妊にはコンドームは必要	23	79.3	23/29	10	<u>47.6</u>	10/21

※下線なしは上昇； ____ は介入前後で差なし； —— は介入後で減少

● **HIV/STD 予防や避妊に対する意識 (Belief) と態度 (Attitude)** : 介入前後で多くの項目では変化は見られなかったが、「将来、性交渉の経験があった場合、HIV に感染する可能性」そして、同じく「STD に感染する可能性」について、「全くないと思う+ほとんどないと思う」と回答した生徒は、介入後で約 10%上昇したが、「将来、性交渉の経験があった場合、望まないときに避妊できると思うかどうか」及び、同じく「HIV 感染を予防できると思うかどうか」の質問に対して、「全く思う+まあまあ思う」と回答した生徒は介入後では介入前より約 11%減少している。(表 A8)

表 A 8 : 2011 年度 : ワークショップ介入前後調査における対象者の HIV・STD 予防/避妊における意識 (Belief)・態度 (Attitude) - 介入前後の比較

ワークショップ介入前後調査における対象者の HIV・STD 予防/避妊における意識 (Belief)・態度 (Attitude)						
(全く思う+まあまあ思う)のみ						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
今、あなたの年齢で性交渉することを容認しない	18	62.1	18/29	12	57.1	12/21
将来、性交渉を経験した場合、望まないときに妊娠する可能性があると思わない	15	51.7	15/29	11	52.4	11/21
将来、性交渉を経験した場合、STD に感染する可能性があると思わない	18	62.1	18/29	15	71.4	15/21
将来、性交渉を経験した場合、HIV に感染する可能性があると思わない	17	58.6	17/29	15	71.4	15/21
将来、性交渉を経験した場合、コンドームを使いたいと思う	24	82.8	24/29	17	81.0	17/21
将来、性交渉を経験した場合、実際にコンドームを使えると思う	24	82.8	24/29	16	76.2	16/21
将来、性交渉を経験した場合、子どもを望まないとき、実際に避妊できると思う	24	82.8	24/29	15	71.4	15/21
将来、性交渉を経験した場合、STD を予防できると思う	24	82.8	24/29	17	81.0	17/21
将来、性交渉を経験した場合、HIV を予防できると思う	24	82.8	24/29	15	71.4	15/21

● **過去 1 年間の間において HIV 予防関連の教育への暴露** : 暴露の有無に関しては、複数回答可能な質問に対し最も多い回答は介入前の調査で約 53.6% (15/28) が「教科書のものを勉強した」、そして、次に多かったのが「予防教育は受けたことがない」と回答した生徒は約 46.4% (13/28) であった。他方、介入後における調査では、「教科書のものを勉強した」と回答した生徒は約 61.9% (13/21)、「学校外からのブラジル人講師の講演会に参加」は同じく約 61.9% (13/21)。

また、2 昨年前に作成した **若者向けのパンフレット** について、「パンフレットを見たことがある」と回答した生徒は、介入前で 1 名のみであったに対し、介入後では 15 人であり、約 71.4% (15/21) であった。そして、その中から「パンフレットを読んだ」と答えた生徒は、8 人で、約 53.3% (8/15) であった。

なお、**若者向けのホームページ** に関しては、介入前で「ホームページを知っている」と答えた人はいなく、そして、介入後で「ホームページを知っている」と回答した生徒は 3 名で、

約 14.3% (3/21) であった。

b. ホームページによる介入評価の結果：

ホームページによる介入における調査の回答者数は介入前で 124 名、介入後で 115 名であった。

●男女の比率は介入前で男 1.03 : 女 1 (男子 63 名、女子 61 名)、そして、介入後の比率は男 1.02 : 女 1 (男子 58 名、女子 57 名) であった。

●平均年齢に関しては、介入前が約 15.5±1.9 歳、そして介入後が約 14.9±2 歳であった。そして、学年については中 3 を中心に、中 1 から高 3 までの生徒が調査に参加した。(表 B 1)

表 B 1 : 2011 年度 : ホームページ介入における事前調査対象者の属性
- 介入前後の比較

ホームページ介入における事前調査対象者の属性						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
男子	63	50.8%	63/124	58	50.4%	58/115
女子	61	49.2%	61/124	57	49.6%	57/115
小 6	6	5.0%	6/121	3	2.6%	3/114
中 1	20	16.5%	20/121	18	15.8%	18/114
中 2	19	15.7%	19/121	18	15.8%	18/114
中 3	21	17.4%	21/121	24	21.1%	24/114
高 1	20	16.5%	20/121	19	16.7%	19/114
高 2	24	19.8%	24/121	21	18.4%	21/114
高 3	11	9.1%	11/121	11	9.6%	11/114

●日本滞在期間については、介入前後共に「日本は始めて」と答えた生徒が最も多く、介入前で約 33.3%、介入後で約 38.6% であった。次に多かった回答は「日本には以前も住んだことがある」と答えた生徒は介入前後共に約 30% であり、また、「日本に生まれて、ブラジルへは遊びにだけ行ったことがある」と答えた生徒は介入前で約 18.7%、そして、介入後で約 27.2%、そして、「日本生まれで、ブラジルへは行ったことがない」と答えた者は、介入前で約 9%、介入後で約 8% であった。(表 B 2)

表 B 2 : 2011 年度 : ホームページ介入前後調査における対象者の日本滞在期間 - 介入前後の比較

ホームページ介入前後調査における対象者の日本滞在期間						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
日本生まれで、ブラジルへは行ったことがない	11	8.9%	11/123	9	7.9%	9/114
日本生まれで、ブラジルへは遊びにのみに行った	23	18.7%	23/123	31	27.2%	31/114
日本は始めてである	41	33.3%	41/123	44	38.6%	44/114
日本には以前も住んだことがある	38	30.9%	38/123	34	29.8%	34/114

● **両親との生活歴**、つまり、離れて暮らしたがどうかの質問について、介入前後共に「父親と離れて暮らしたことがある」と回答した生徒は約 2.5 割で、「母親と離れて暮らしたことがある」と回答した生徒は約 3.5% で、そして、「両親ともにと離れて暮らしたことがある」と答えた生徒は約 23.5% であった。また、「両親とは離れて暮らしたことがない」と回答した生徒は約 45% であった。(表 B 3)

表 B 3 : 2011 年度 : ホームページ介入前後調査における対象者の両親との生活歴
- 介入前後の比較

ホームページ介入前後調査における対象者の両親との生活歴						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
父親と離れて生活したことがある	34	27.4%	34/124	30	26.3%	30/114
母親と離れて生活したことがある	4	3.2%	4/124	4	3.5%	4/114
両親と離れて生活したことがある	29	23.4%	29/124	27	23.7%	27/114
両親と離れて生活したことがない	56	45.2%	56/124	52	45.6%	52/114

「現在、誰と一緒に暮らしているか」の質問に対し、複数回答で介入前後のアンケートで約 95% が「母親」と暮らしていると回答し、また、約 8 割が「父親と暮らしている」、そして、約 6% が「継父」と暮らしていると回答した。(表 B 4)

表 B 4 : 2011 年度 : ホームページ介入前後調査における対象者の現在の同居人 (複数回答)
- 介入前後の比較

ホームページ介入前後調査における対象者の現在の同居人 (複数回答)						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
母親	120	96.8%	120/124	110	95.7%	110/115
父親	97	78.2%	97/124	91	79.1%	91/115
姉妹・兄弟	64	51.6%	64/124	66	57.4%	66/115
親戚	8	6.5%	8/124	6	5.2%	6/115
継父	8	6.5%	8/124	7	6.1%	7/115

● **インターネットアクセス**に関しては、「インターネットにアクセスする」と回答した生徒は介入前で 94.7% (108/114)、そして、介入後で約 95.1% (98/103)。また、「毎日アクセスする」と回答した生徒は、介入前で約 85.6% (89/104)、介入後で約 85.7% (84/98) であった。**平均接続時間**は介入前後共に約 4.5±3.5 時間であった。

「携帯電話におけるインターネットアクセス」については、携帯を所持している生徒のうち、介入前後共に約 5.5 割 (前 57/105 ; 後 56/98) がアクセスすると回答した。

● **交際経験や性交渉経験**について、「その場限りの付き合い」の経験がある生徒は、介入前後においておよそ 4.5 割で、「ステディーな付き合い」の経験者は約 3.5 割であった。そして、性交渉の経験をしている生徒は、介入前後共に 1 割未満であった。また、性経験を持ったと回答した生徒のうち、「初めての性経験の年齢」について、介入前後共に約 15 歳前後であり、

そして、交渉相手の年齢については、介入前で約 18 歳、介入後では、約 17 歳であることが分かった。(表 B 5)

表 B 5 : 2011 年度 : ホームページ介入前後調査における対象者の交際・性経験
- 介入前後の比較

ホームページ介入前後調査における対象者の交際・性経験						
	介入前			介入後		
	人数	%	割合	人数	%	割合
その場限りの使いあり	58	47.5%	58/122	48	44.0%	48/109
ステディーな付き合いあり	43	35.0%	43/123	40	36.0%	40/111
性経験あり	11	9.1%	11/121	9	8.1%	9/111
			平均			平均
はじめての性経験の年齢			15.4±1.3 歳			14.8±1.2 歳
はじめての性交渉のパートナーの年齢			18.1±3.1 歳			17.4±3.6 歳

また、性交渉の経験をもつ生徒にたいし、「最後の性交渉でコンドームを使った」と答えた者は、介入前で約 81.8% (9/11) で、介入後では約 66.7% (6/9) であった。

「コンドームを使いたかったが使えなかったことがある」と回答した生徒は、介入前で 72.7% (8/11) 介入後では約 55.6% (5/9) であった。コンドームを使わなかった理由として、介入前では：

「コンドームを持っていなかった」が約 42.9% (3/7)；

「間に合わなかった」が約 14.3% (1/7)；

「性交渉前は使う意思はあったが、その場では気分が高まって使えなかった」が約 28.6% (2/7)；

と回答した。そして、介入後では：

「相手が使いたくなかった」が約 20.0% (1/5)；

「コンドームを持っていなかった」が約 40.0% (2/5)；

「性交渉前は使う意思はあったが、その場では気分が高まって使えなかった」が約 40.0% (2/5)；

と回答した。